

Sakai, T. 1986

CRUSTACEA LIBRARY
SMITHSONIAN INSTITUTION
RETURN TO W-119

Researches on Crustacea, No. 15
Carcinological Society of Japan
Odawara Carcinological Museum
Azabu-Juban 3-11, Minatoku, Tokyo
(Issued—April 30, 1986)

珍奇なる日本産蟹類の属と種について

口絵 1, 図版 I-III, 挿図 1

酒 井 恒

(日本甲殻学会)

RARE SPECIES AND THEIR GENUS OF CRABS IN JAPAN

With 1 Frontispies, 3 Plates, 1 Text-figure

By

Tune SAKAI

(Carcinological Society of Japan)

1. *Goniopugettia sagamiensis* GORDON について

1904年、西ドイツの DOFLEIN はヴァルディヴィア深海探検の報告 [Deutschen Tief-see Expedition auf dem Valdivia 1898-1899] の p. 85, Pl. XXVII, figs. 13, 14 に於いて、ツノガニの1種 *Hyastenus brevirostris* なる新種をスマトラ島の西南岸から記載している。その属と種の決定については甲殻学者の SARS 及び ALCOCK の2人の教示に俟って、額棘と歩脚の短い点と甲殻の表面の絨毛を去った後の突起や棘等から判定して新種は既に記載されている *Hyastenus pleione*, 又は *H. hilgendorfi* に近い種であることが2人の学者によって指摘された。

1915年に伊太利のブルノー、パリシ (B. PARISI) なる学者は日本の相模湾の蟹類についてミラノの博物館の資料に基づき I. Decapodi Giapponesi del Museo di Milano を刊行し、その Pl. 7, p. 287 に *Pugettia brevirostris* なる種類の蟹を発表しその図は精細な写真であるので明らかにこれは DOFLEIN の p. 85, Pl. XXVII, figs. 13, 14 の種と同名であるので、British Museum の Dr. Isabella GORDON は 1931年に刊行した中国の蟹 (アモイ、ホンコン、中国、相模湾の蟹) の p. 556, text-fig. 35 に *Pugettia sagamiensis* なる蟹の甲殻の全図を掲載し *Pugettia brevirostris* PARISI, nec DOFLEIN の異名同種なるが故に新名を変更している。このゴールドン博士の名称 *Goniopugettia* が新名として新しい *Pugettia* の名前と変って1959年の1月、酒井はこれを *Goniopugettia* という名前に変えた。その理由は後述の通り、*Pugettia* 属ではないからである。なお DOFLEIN の1904年の *Hyastenus brevirostris* (Pl. XXVII, figs. 13, 14) は I. GORDON の p. 557 の text-fig. 36, a に正確な線画で画かれていて *Pugettia brevirostris* として画かれている。

Pugettia 属

この属の蟹は、日本の岩礁の浅所にごく普通にみられる蟹で、和名をよつはもがに属という。甲面には絨毛が密生する。これを取り去ると甲面には隆起が多い。額棘及び胸脚の長節・腕節前節・指節それぞれの前縁や後縁にも絨毛が多く生じている。体の大きさはむしろ小型で、大きなヨツハモガニでも甲長 30 mm, 甲幅は側方の鰓上棘をふくめても 24 mm くらいである。体色は甲殻が一様に褐色または暗緑色で、時には黄褐色を呈するものがある。この属の雄の腹肢は必ず先端が三葉に分岐している (Pl. I, 7・8・9)。

日本産 *Pugettia* 属は下記の10種におよんでいる。

- Pugettia quadridens* (de HAAN) ヨツハモガニ (Fronispiece, 1)
P. quadridens intermedius SAKAI ヨツハモドキ
P. pellusence RATHBUN ヒメヨツハモドキ
P. incisa (de HAAN) ヤワズモガニ (Frontispiece, 2)
P. minor ORTMANN ヒメモガニ
P. elongata YOKOYA ナガモガニ
P. nipponensis RATHBUN ニッポンモガニ
P. similis RATHBUN コモガニ
P. kagoshimaensis RATHBUN カゴシマモガニ
P. brevisrostris DOFLEIN

Goniopugettia 属, 酒井 (1957)

この属が *Pugettia* 属と異なるおもな特徴は; 1. 大型の蟹である。通常の大きさでは、甲長 54 mm, 甲幅 45 mm 以上あり、甲面には絨毛が多い; 2. 色彩は深紅色で胸脚も赤い; 3. 額棘はほぼ平行し、胸脚の長節・腕節・指節は前縁後縁に絨毛が密生する。眼上枝は発達し、ここにも絨毛が密生している; 4. 雄の第一腹肢はまっすぐで先端は三岐していない (Pl. I, 6) などがあげられる。

Goniopugettia tanakae n. g., n. sp. タナカオニモガニ (Frontispies, 3)

- 3♂♂, 2♀♀, Off Enoshima, SAKAI
 20♂♂, 3♀♀, Odawara Carcinological Museum, Tokyo, Dr. T. ODAWARA
 3♂♂, 2♀♀, Off Hayama, Mr. H. IKEDA, Mr. T. WATANABE
 3♂♂, 2♀♀, Kii Minabe, coll. by Mr. M. OZAKI
 10♂♂, 5♀♀, Tosa Mimase, coll. by K. SAKAI
 1♂, Tosa Murotozaki, coll. by Mr. K. MATSUZAWA
 2♂♂, 1♀, Nagasaki, coll. by Mr. M. MATSUO

種名は三重県鳥羽の熱心な採集家本居博物館長、田中信一氏の名前を記念するためのものである。本属の第2番目の種である。

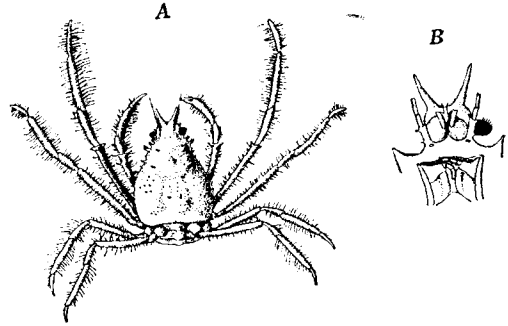
本種は大型で雄の甲殻の長さは 60 mm, 甲幅 55 mm にたつする。体全体の色彩は一様に深紅色である。眼上板はよく発達し、甲の両側に3個の隆起があり、心域も高く突出する。雄の腹肢は細く、まっすぐで、先端が *Pugettia* 属のように三葉に分岐することはない。鉗脚や歩脚の各節は板状で平たい。

2. *Parapleistacantha japonica* YOKOYA, 1933. ヤマトハリセンボンについて

この属の蟹は *Pleistacantha* MIERS, 1879 (ハリセンボン属)に近い属で横屋氏が1933に書い

た属で *japonica* 1 種を含み、横屋氏*が 1933, p. 140 に述べた以外にその記録はない。最近名古屋の採集家飯柴英次氏がはじめてこの種の♀を 1 匹、紀伊半島沿岸から採集したのでこの属の二度目の採集である。

小形種で額棘は短かく左右広く開き、鉗脚歩脚共に短小で棘毛もまた短かい、甲面の棘も短小である、甲域にある 4 個の小棘は小さくて不顕著、額棘は短かく開度ひらき鈍い。



Text-fig. 1. *Parapleisticantha japonica* YOKOYA
A. 背面, B. 口部腹面 (after YOKOYA, 1933)

3. 東京湾の地中海ミドリガニについて

わたりがに科 (Portunidae) の中で原始的な Carcininae (=Carcinidae) と呼ぶ亜科がある。その亜科の中に *Carcinus* (*Carcinides*) RATHBUN という 1 属があって *Carcinus* (*Carcinides*) 属が最基礎をなし *Carcinus maenus*=*Carcinides maenus* (Pl. II, 2) がその基礎をなし、ヨーロッパ南米、ハワイ各地に分布しているが東洋の中国、日本にはその分布を見ない。この属に地中海の種名のついた *Carcinus mediterraneus* なる 1 種があってアメリカでもアジアにも産せずただ地中海にのみ産し「地中海ミドリガニ」なる和名をおびている (*mediterranean green crab*=*Carcinus mediterraneus* CZERNIAVSKY; Pl. II, 1・3)。この珍奇なカニがいかなる方法によったものか不明であるが、1959 年の夏以来東京湾から多量に採集されるようになった。1959 年の 10 月、葉山の熱心な採集家、日本甲殻類学会会員の池田等氏のはじめて千葉県浦安の海岸から地曳網の残物の中からこのカニの抱卵した死雌の標本を採集した。引き続き同氏は同地から雄の死標本 2 個を採集したのである。1960 年に筆者が訪欧した際パリにて Dr. J. FOREST から見事な地中海ミドリガニの 1♂, *Carcinus maenus* の 1♂, 地中海ミドリガニとヨーロッパの *Carcinus maenus* 両種の♂の腹肢を露出させた写真をいづれも提供され、比較することができた。又熊本大学の天草臨海実験所の山口隆雄教授はナポリ産の地中海みどりがにの完全な標本 3♂♂, 1♀を比較のために提供して下さったので東京湾のカニが地中海のかと同種であることが判然とした。昭和 59 年の 8 月 21 日、横浜の磯子海岸に多くの磯の動物が這い上り、神奈川新聞社の写真部長江島氏がその写真を撮影してあってそれを提供して下さったので東京湾に地中海ミドリガニが拡散していることがわかったのである (Pl. III)。その拡散した方法は不明ではあるが(1)地中海や大西洋の章魚が食料の材料として多量に冷凍して日本の各地の市場に送られてくるが、その中に地中海ミドリガニの生存した個体が混じていたか、いまひとつは大型の艦船のパラスト水槽の中に地中海ミドリガニの幼ガニが混入してきて東京湾に移住したかのいづれであろう。いづれにしても東京湾に地中海だけにいる地中海ミドリガニが移住した事実は珍奇なことである。神奈川新聞の写真部長江島氏と熊本大学天草臨海実験所の山口隆雄教授の二人の御助力に深い感謝の意を捧げる次第である。

4. ツノガニの化石について

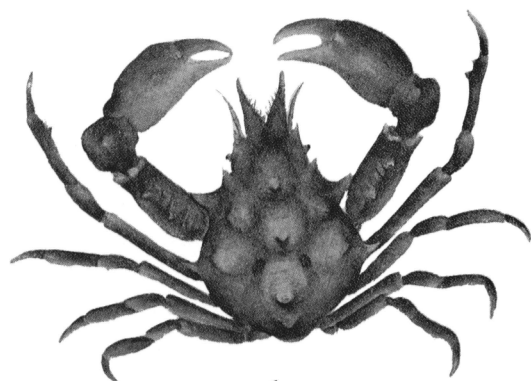
1977年に東海化石研究会長、西沢勇氏は、愛知県の化石という表題で名古屋港浚渫工事の折

* YOKOYA, Y, 1933: J. Coll. Agricult., Tokyo Imp. Univ. Vol. 12, No. 1.

に得られた多くの化石、半化石についてその第一集を刊行して多くの浅海底の動物が記載されている。その Pl. 8, Pl. 9, Pl. 10 には多くのツノガニ類が記載してあり、Pl. 8 (p. 20) にはトウカイエダツノガニ (*Naxioides* sp.), エダツノガニ (*Naxioides*) は成体 4 体と幼体 2 体が画かれているが額棘がいずれも短かす。また 2 本の額棘がいずれも内縁の末端に近く小さい副棘を有することが本属の特徴である。然るに化石の図ではこれがなく、甲幅もせまいので別属のように思える。口絵の Fig. 6 を参照されたい。また Pl. 11 (p. 24) にはナゴヤクモガニ *Platymaja* sp.) とあるが、甲幅が大きく *Platymaja* とは見られない。むしろ口絵の Fig. 5 に示してある *Pisoides bidenlatus* であろうと思う。

これらのうち第 8 図版の 7 図 (1-a-c, 2-a-b) の 5 図は成体であり和名はトウカイエダツノガニとあり学名は *Naxioides* sp. とあるが、*Naxioides* 属では 2 本の額棘が長くて甲長の $\frac{1}{2}$ よりも長く夫々の内側に先端に近く小さい副棘がある、種類としては *Naxioides mammillata* のほかに *N. hystrix*, *N. taurus*, *N. hirta* 等の別種があるが、第 8 図版の種類はその何れの種類にも該当していない。

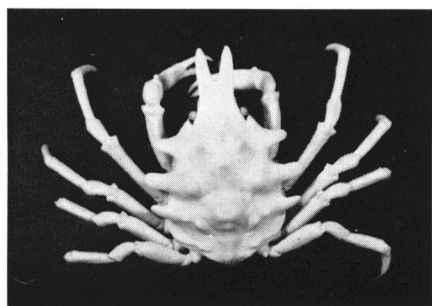
またその第 9 図版の 6 種類の中、1 の a, b, 2 はツノガニ、3, a-b, 4 はヤハズモガニであろう。図版 11 (page, 34) の種は額棘短小で甲幅が大きいので多分 *Pisoides* 属 (図版 79) と同じ種であろう。



1



2



3



4



5



6

1. *Pugettia quadridens* de HAAN ヨツハモガニ
2. *Pugettia incisa* de HAAN ヤワズモガニ
3. *Goniopugettia tanakae* SAKAI タナカオニモガニ (n. g. et sp., photo by S. TANAKA)
4. *Goniopugettia sagamiensis* GORDON サガミモガニ
5. *Pisoides bidentatus* (A. M. EDWARDS) オオトガリガニ (SAKAI, 1956 より)
6. *Naxioides mammillata* (ORTMANN) エダツノガニ (SAKAI, 1956 より)

Explanation of Plates

I—III

Explanation of Plate I

1. *Hyastenus brevirostris* (ventral view) after DOFLEIN (1940)
2. The same (dorsal view)
3. *Pugettia brevirostris* after GORDON (1900)
4. *Pugettia sagamiensis* after GORDON (1931)
5. *Pugettia brevirostris* after PARISI (1912)
Both *P. sagamiensis* and *P. brevirostris* are synonymous with *Goniopugettia sagamiensis* SAKAI, 1959
6. Male 1st pleopod of *Goniopugettia sagamiensis*
7. Male 1st pleopod of *Pugettia quadridens*
8. Male 1st pleopod of *Pugettia incisa*
9. Male 1st pleopod of *Pugettia nipponensis*



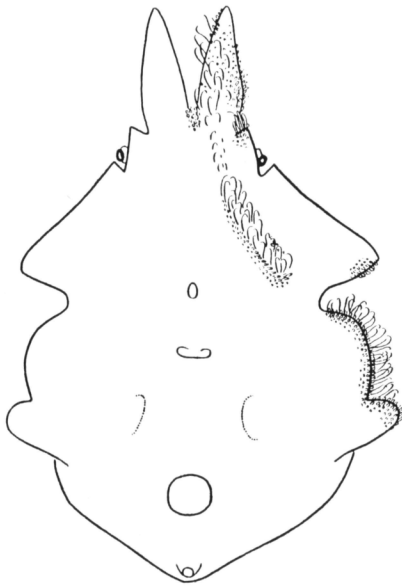
1



2



3



4



5



6



7



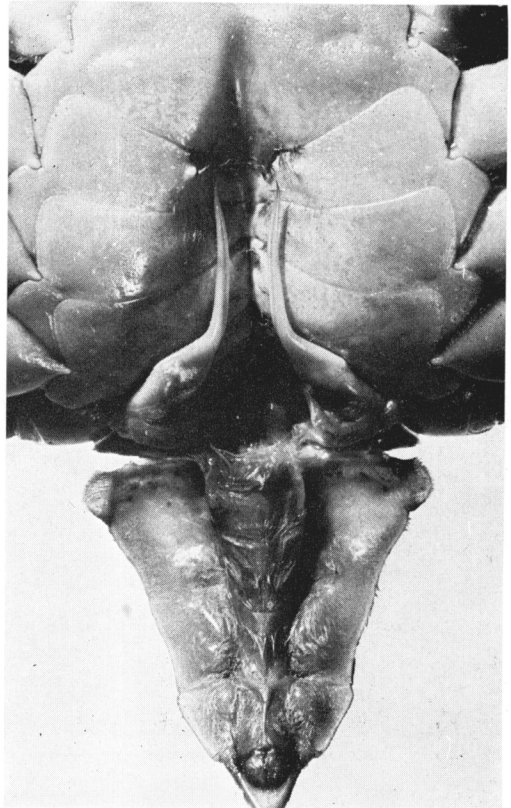
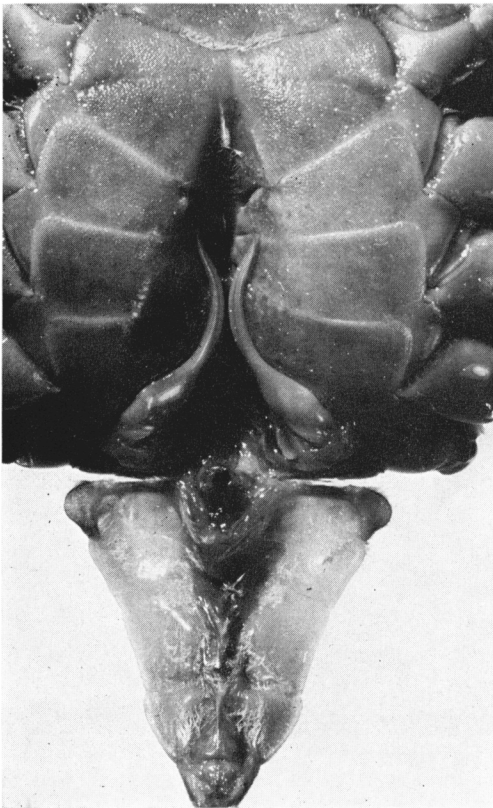
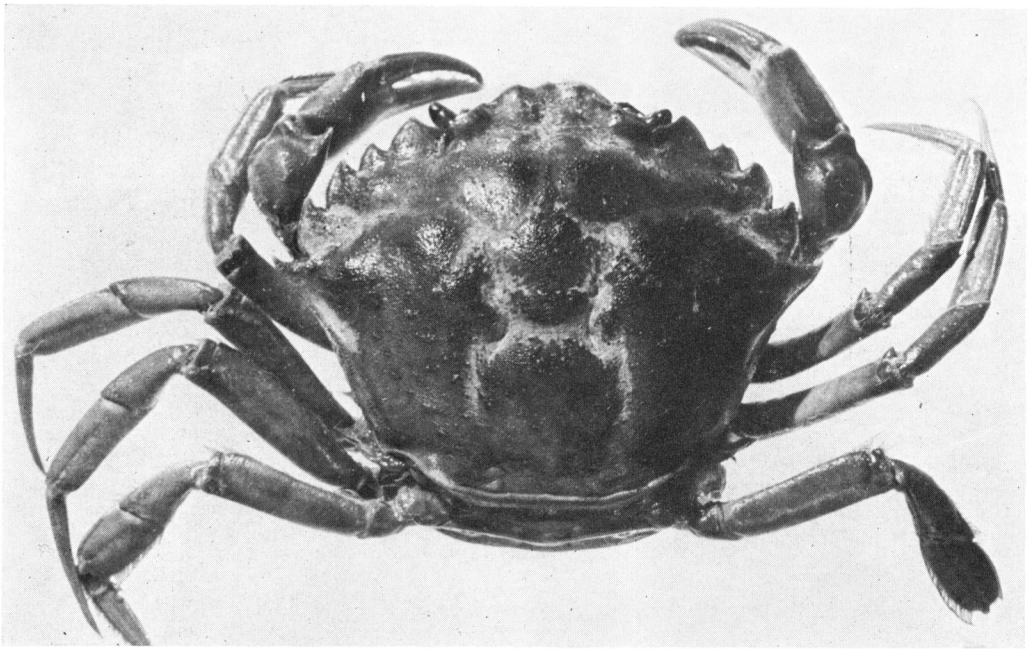
8

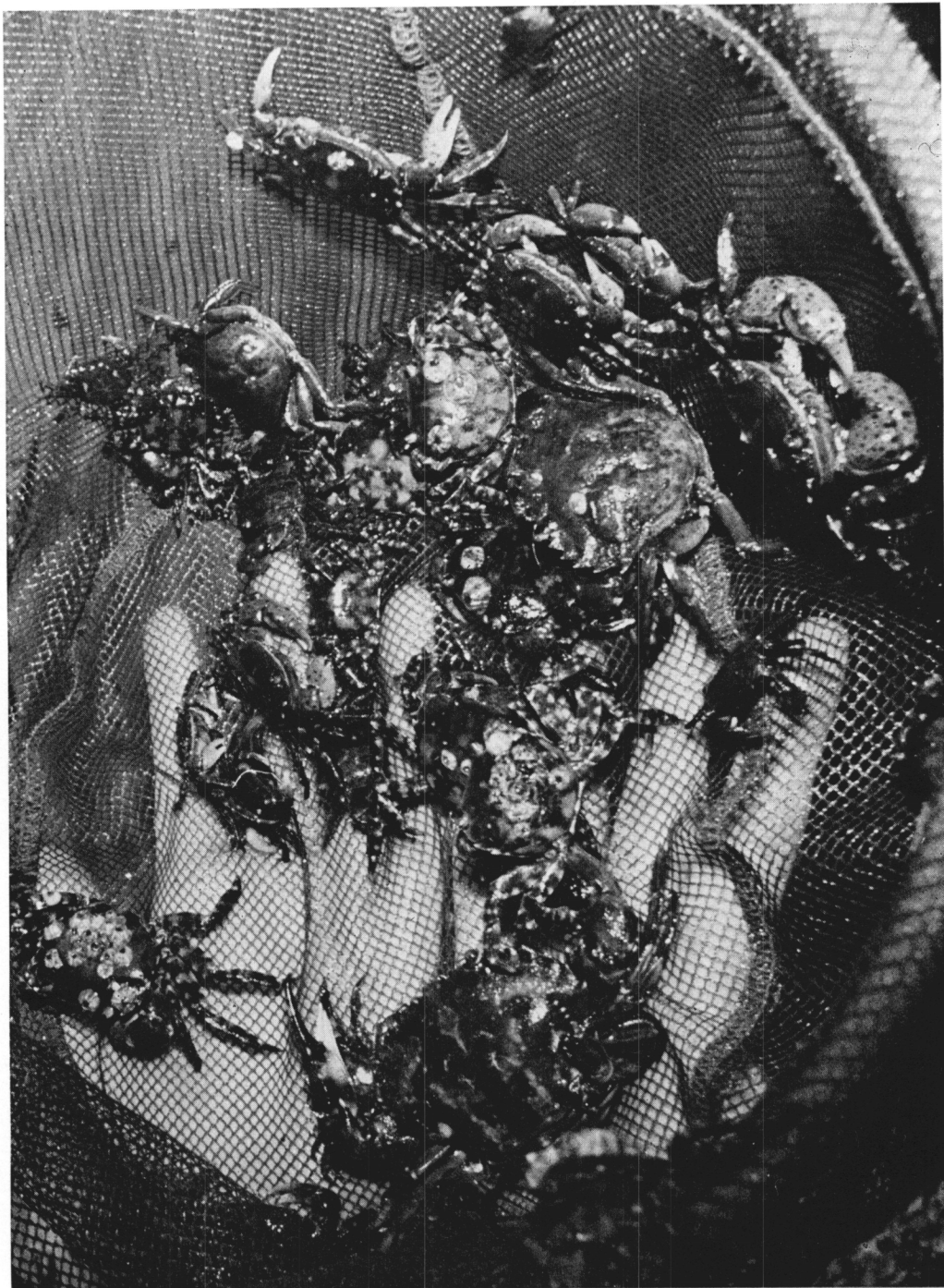


9

Explanation of Plate II

- Above: *Carcinus mediterraneus* CZERIAVSKY チチュウカイミドリガニ (♂)
(Photo after J. FOREST, 1960—Specimen from Barcelona)
- Below, left: Male 1st pleopod of *Carcinus maenus*
(Photo after Dr. J. FOREST)
- Below, right: Male 1st pleopod of *Carcinus mediterraneus* CZERIAVSKY
(Photo after Dr. J. FOREST)





Animals collected from Isogo beach, Yokohama (Photo by Mr. EJIMA, August 21 1984)